

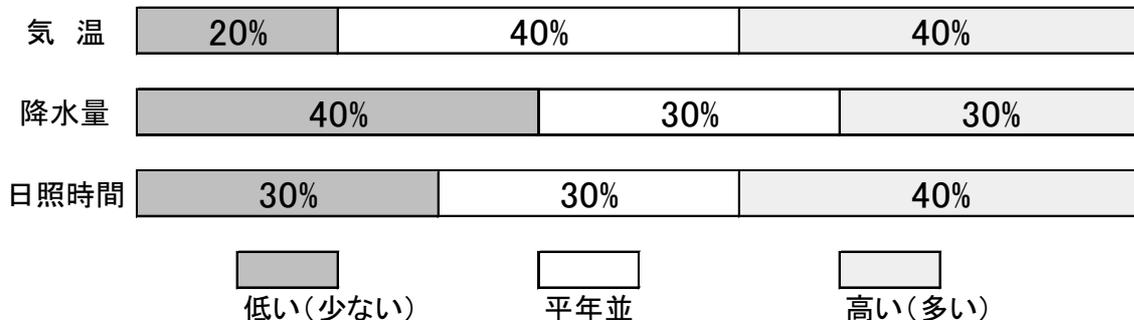
令和2年度 病害虫発生予察情報 発生予報第2号（5月）

令和2年4月27日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	ムギ	さび病類	平年並	
		赤かび病	やや少ない	
		うどんこ病	平年並	
		イネ	ヒメトビウンカ	平年並～やや多い
果樹	ナシ	ニカメイチュウ	平年並	
		イネミズゾウムシ	少ない～やや少ない	
		黒斑病	平年並	
		黒星病	平年並～やや多い	
		シンクイムシ類	平年並～やや多い	
		ハマキムシ類	平年並	
野菜	タマネギ	ハダニ類	平年並	
		灰色かび病	平年並	
		カキ	カキクダアザミウマ	平年並
		ホトリフ属菌による葉枯れ	平年並～やや多い	
		べと病	平年並	
		腐敗病・軟腐病	多い	
	イチゴ	灰色かび病	少ない～やや少ない	
		うどんこ病	やや少ない～平年並	
		アブラムシ類	少ない	
		ハダニ類	平年並	

中国地方1か月予報(4月25日～5月24日・広島地方気象台4月23日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類 (小さび病、赤さび病)

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では一部ほ場でコムギ赤さび病の発生を認めた。

② ムギの生育は早い。

③ 5月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

② ムギの生育は早い。

③ 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) うどんこ病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② ムギの生育は早い。
- ③ 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、4月第4半旬まで認めていない。
- ② 4月中旬のすくい取り調査（耕起前）では、発生ほ場率は40.7%（平年30.7%）、捕獲数は0.8頭/20回振（平年1.2頭）で発生量は平年並みである。
- ③ 越冬世代成虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（平年1.3%）と低い。
- ④ 5月の気象は本種の発生に助長的である。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、4月第4半旬まで認めていない。フェロモントラップでの誘殺は、4月第2世代成虫発生量は平年並みである。
- ② 前年やや少なく、越冬量は平年に比べてやや少ないと考えられる。
- ③ 5月の気象は本種の発生に助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、4月第4半旬まで認めていない。
- ② 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は21頭（平年96.5頭）と平年に比べて少なく、本年の越冬量は平年に比べて少ないと考えられる。
- ③ 5月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を確認しておらず、発生量は平年並みである。
- ② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発病幼果率0.5%（平年0.2%）であり、発生量は平年と比べてやや多い。
- ② 5月の気象は本病の発生に対してやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月第1半旬でやや早い。
- ② 前年の性フェロモントラップでのナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで、越冬量は平年並みと考えられる。
- ③ 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容 発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

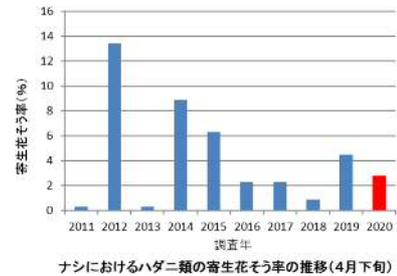
- ① フェロモントラップの初誘殺は4月第3半旬で平年並みであり、誘殺数はやや少ない。
② 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(5) ハダニ類

予報内容 発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
② 4月下旬の巡回調査(安来市、出雲市)では寄生花そう率は2.8%(平年4.1%)で平年に比べてやや少ない。主要種はクワオオハダニで、本種には効果がない殺ダニ剤があるので剤の選定には注意する。
③ 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容 発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発病葉率0.8%(平年1.2%)であり、発生量は平年並みである。
② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキクダアザミウマ

予報内容 発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認めていない。
② 4月下旬の巡回調査では巻葉被害を認めていない。
③ 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容 発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発生ほ場率13.3%(平年4.7%)、発病株率0.3%(平年0.1%)で平年に比べてやや多い。
② 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) ベと病

予報内容 発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発生ほ場率23.3%(平年30.6%)、発病株率1.3%(平年2.9%)と平年並みである。
② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。
注) 令和2年度病害虫発生予察情報 注意報第1号 参照。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容 発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発生ほ場率76.7%(平年33.9%)、発病株率は7.3%(平年2.1%)で平年に比べて多い。
② 5月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。
注) 令和2年度病害虫発生予察情報 技術情報第1号 参照。

- 2) イチゴ
- (1) 灰色かび病
- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 少ない～やや少ない
- 予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発病葉率0.2%（平成0.8%）、発病果率0%（平成0.4%）と平成に比べてやや少ない。
② 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。
- (2) うどんこ病
- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平成並
- 予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査地点における発生量は、発病葉率0.1%（平成0.1%）、発病果率0.9%（平成0.6%）と平成並みである。
② 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。
- (3) アブラムシ類
- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 少ない
- 予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平成23.4%）、寄生株率0%（平成4.1%）、寄生小葉率0%（平成1.5%）と少なかった。
② 5月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (4) ハダニ類（ナミハダニなど）
- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平成並
- 予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率88.9%（平成68.4%）、寄生株率46.1%（平成43.5%）、寄生小葉率27.3%（平成37.3%）と平成並みである。
② 5月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況
独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。
農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

島根県病虫害防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫害科）
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342
ホームページアドレス
http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp